
[成果情報名] フェロモントラップによるフジコナカイガラムシ防除適期の予測法

[要約] フジコナカイガラムシのフェロモントラップにおける越冬世代雄成虫誘殺ピークと発育速度、日平均気温（アメダス平年値）を用いて、有効積算温度法により防除適期である第1世代幼虫発生時期が予測できる。

[キーワード] フジコナカイガラムシ、フェロモントラップ、防除適期、予測

[担当部署] 病害虫部・虫害チーム

[連絡先] 092-924-2938

[対象作物] 果樹

[専門項目] 病害虫

[成果分類] 新技術

[背景・ねらい]

カキの重要害虫であるフジコナカイガラムシの防除適期は第1世代幼虫発生時期であるが、幼虫は微小であるため発生時期の把握が難しい。本種に対する防除効果を向上させるためには、幼虫発生時期を把握する必要がある。そこで、フジコナカイガラムシの性フェロモン剤を用いて幼虫発生時期を予測する防除適期予測法を開発する。

（要望機関名：久留米普(H17)）

[成果の内容・特徴]

- 1．フジコナカイガラムシの性フェロモン剤を設置した粘着トラップ（図1、10cm×20cm。以下、フェロモントラップ）により、雄成虫誘殺ピークを把握することができる（図2）。
- 2．フェロモントラップにおける越冬世代雄成虫誘殺ピークを基点として、フジコナカイガラムシの発育速度（澤村・奈良井,2008）と日平均気温（アメダス平年値）を用いて有効積算温度法で予測した第1世代幼虫発生ピークは実際の発生ピークと概ね一致する（図3、表1）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．フジコナカイガラムシ防除適期の予測に活用できる。
- 2．粘着トラップは市販物（SEトラップ等）で代用できる。
- 3．フジコナカイガラムシの発生予察用性フェロモン剤は平成22年度中に日本植物防疫協会から発売される予定である。

[具体的データ]



図1 フェロモントラップ

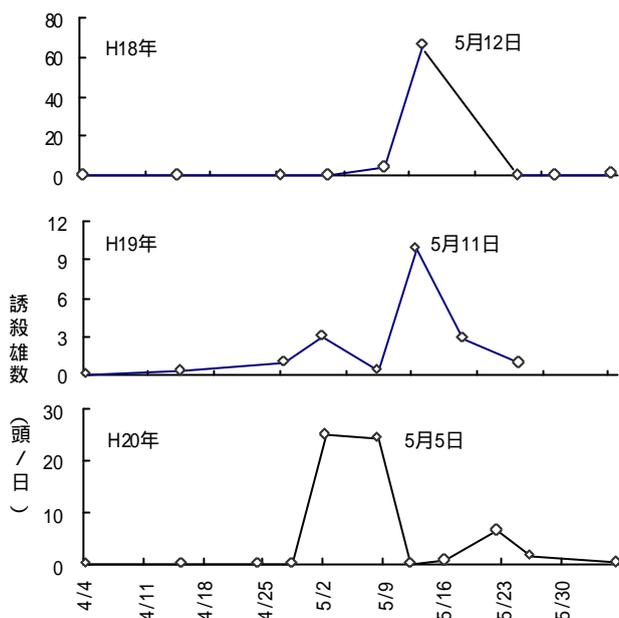


図2 フェロモントラップにおけるフジコナカイガラムシ越冬世代雄成虫の誘殺消長（筑紫野市）

注) 図中の日付は誘殺ピーク日を示す

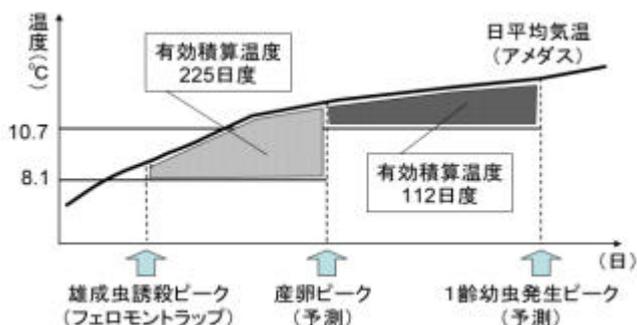


図3 1 齢幼虫発生ピークの算出方法

注) 雄成虫誘殺ピーク日以降の有効積算温度（日平均気温 - 8.1）の和が225日度に達した日が産卵ピーク、その翌日以降の有効積算温度（日平均気温 - 10.7）の和が112日度に達した日が1 齢幼虫発生ピーク。

表1 第1世代1 齢幼虫発生時期の有効積算温度法による予測と実測の比較

年	筑紫野市（太宰府）			朝倉市（朝倉）		
	予測		実測	予測		実測
	平年値	各年値		平年値	各年値	
H18	6/13	6/12	6/19	6/19	6/17	少発のため不明
H19	6/11	6/9	6/12	6/15	6/12	6/12
H20	6/7	6/6	5/30	5/31	5/30	6/10

注) 1. 予測：フェロモントラップの雄成虫誘殺ピーク、发育速度、日平均気温（アメダス平年値および各年値）から有効積算温度法を用いて算出した次世代の1 齢幼虫発生ピーク

2. (): アメダス観測地点

3. 実測：バンドトラップにおける1 齢幼虫誘引ピーク

[その他]

研究課題名：フジコナカイガラムシに対する性フェロモン利用技術の開発

予算区分：国庫受託（実用技術開発）

研究期間：平成20年度（平成18～20年度）

研究担当者：手柴真弓、清水信孝、堤 隆文